



国鉄新潟

No.1075
発行
2022年
6月15日
国鉄労働組合
新潟地方本部
発行責任者
清野 聡
編集責任者
教 宣 部

JR東日本2・30カ月の回答

「2022年度夏季手当等に関する申し入れ」JR東日本は6月7日に回答を行いました。

国労東日本本部・執行委員会は6月8日、苦渋の決断ではありましたが社員の生活設計などを考慮し妥結・整理することとしました。

今こそ社員へ 投資が必要

国労東日本本部としては「要求は厳しい経営状況を認識しつつ、社員の生活設計に最大限配慮した要求であり、赤字幅が大きく削減したのは、経費削減に努力した結果である。」



回復傾向となるなかで、会社の持続的な発展には、今こそ社員への投資が必要である」と繰り返し主張しました。

今回は「職場の経費削減のために努力し、目に見えないコロナウイルスの恐怖を抱えながら日夜『安全・安定』輸送を担う社員と、それを支える家族の労苦に報いて

いないと強く抗議をしました。



2022年度 夏季手当



支払い日は6月28日以降、準備出来次第です。



当面する行動

- 国労本部定期大会
7月28日(木) 29日(金)
- 国労東日本本部定期大会
8月20日(土)
- 国労地本定期大会
9月17日(土) 13時～

○コロナの感染状況が終息に向っているようです。地本定期大会は予定通り開催します。感染拡大防止対策を強化し開催に臨みます。



編集後記

何とか今回も年間発行30号を達成しました。今、ホットしています。

なかなか、年間で30号発行は大変な苦勞があります。

特に、コロナウイルス感染拡大で、3年間あまり地本として具体的な行動が出来ませんでした。

その状況で記事を集めるのは大変な作業でした。集会や会議など開催すれば記事が書けます。

しかし、取り組みができない環境の中、機関紙に記載するものがまったくありません。そんな状況が続きました。



年間30号発行は、エリア本部の機関紙表彰制度が変わり地本も表彰の対象になりました。

30号発行は自分に対しての大きな目標でした。この表彰制度が変更になってから、毎年30号発行を続けています。



分代&組対会議開く

6月11日に、第3回地本分会代表者会議&組織強化・拡大対策会議を開催しました。

出席者が少なく、なかなか議論が展開されませんでした。参加した各分会から社員代表者選挙の報告や職場の状況について発言がありました。

まだまだ、コロナ禍の中でしたが組合員の皆さんの御協力で開催することができました。

拡大については報告・意見が出ませんでした。まだ、厳しい状況の中具体的な取り組みが進んでいませんでした。

次回、組織強化・拡大対策会議については開催していくことを全体で確認しました。短時間でありましたが終了しました。



私教連・物販のお願い

●帝京長岡高校の吉田先生が不当解雇され、現在、東京高裁・東京地裁・新潟県労働委員会で、不当労働行為事件、不当解雇事件など闘っています。

●7月7日に東京地裁で証人尋問が行われます。東京地裁の闘いは、中労委で不当労働行為対して全面勝利しましたが、学園側はそれを不服とし東京地裁へ申立てました。高裁、地裁、県労委と闘いを進めています。財政的に厳しい状況です。

●皆さんのあたたかい御支援・御協力をお願いします。



JR貨物・3回目の交渉

2022夏季手当の支払いに関する申し入れ

国労本部は6月10日に「2022年度夏季手当の支払いに関する申し入れ」について第3回目の交渉を行いました。



個人負担は増加している

本部は交渉の中で、物価高騰により7〜8万円の個人負担は増加している。職場の若手は副業や求人サイトを閲覧しており、離職者も年間70名程度いる。7月期での収入動向についても回復と見ない、その理由について理解できない。

以前と同じ状況なら理解もできるが、業績、計画そのものも社員は与えられた仕事を一生懸命しており、基準だけがコロナ変わった。



低額回答を行う

田村会長の発言に多能工化の文字も記載されているが、社員にとっては今まで以上に仕事をしろといったながら低額回答を行うもので、2013年は経常利益34億円を確保し、その後上回り続け、2017年〜2021年で3.44カ月まで上がってきているが、僅か0.24カ月生か上がっていない。

昨年冬の水準に... その考え方は認められない

会社は、現時点の考え方を説明し「昨年冬の水準は何とか確保したい」と議論を重ね検討している... 国労本部は、昨年冬の水準は、昨年夏季を下回る。その考え方は認められない... 次回交渉は6月17日回答を予定している。

次回交渉は6月17日 回答を予定している